

災害時には「白い小箱」

日本非常食
推進機構

利用、備蓄で県と協定

災害用物資の普及活動に取り組み「日本非常食推進機構」(四日市市)が、物資の利用

や家庭内での備蓄を進めるための協定を県と結んだ。一日分の食料

などをまとめた「白い小箱」を十一月から県内全域で無料配布するほか、災害時には小箱を被災地へ送る。

市市)が、物資の利用

や家庭内での備蓄を進めるための協定を県と結んだ。一日分の食料

などをまとめた「白い小箱」を十一月から県内全域で無料配布するほか、災害時には小箱を被災地へ送る。

や家庭内での備蓄を進めるための協定を県と結んだ。一日分の食料

などをまとめた「白い小箱」を十一月から県内全域で無料配布するほか、災害時には小箱を被災地へ送る。

などをまとめた「白い小箱」を十一月から県内全域で無料配布するほか、災害時には小箱を被災地へ送る。



大人1日分の食料や防寒シートなどを入れた「白い小箱」県庁で

などで配る。小箱の身は、大人一日分の米と飲料水二リットル、アルミ製防寒シート、ポケットティッシュなど。

推進機構の古谷賢治代表によると、東日本大震災では全国から食料などの支援物資が集まったが、仕分けが進まず被災者に行き届くのに時間がかかったり、食料が傷んだりした。災害時にすぐに持ち出し、被災地に送れば一箱ずつ配れる白い小箱を考案し、普及を進めてきた。

小箱の生産は県内の障害者施設に依頼。保

管期限は三年間で、期書を交わした古谷代表が迫った小箱は食料は「災害に備えて、白不足で苦しむ発展途上宅に家族分の小箱を備国に送るといふ。県庁善してほしい」と呼びで鈴木英敬知事と協定掛けた。(宿谷紀子)